

■学校経営のポイント

授業の型を柔軟に活用する

小島 宏

8月下旬に全国学力調査結果が公表された。A問題（知識・技能の定着）は平均正答率が65～80%で概ね良好である。一方、B問題（知識・技能の活用）は平均正答率が55%前後と低く課題が残った。これはドリル学習や家庭学習だけでは克服できない。そこで、既習事項を総合的・横断的・創造的に活用して課題を解決する能力を育てる授業づくりが求められる。

ここで重要なことは、管理職は多様な視点を持ち、特定の教育原理や授業の型に必要以上にとらわれず、目標や指導内容や学習活動、子供の実態に応じた適切な授業を展開するという柔軟なスタンスでリーダーシップを発揮することである。そこで、いくつかの授業の型を紹介し、質の高い学力を育成する授業づくりの手掛かりを提供することとしたい。

授業のユニバーサルデザイン《桂聖》

ユニバーサルデザインとは、国籍・言語・文化の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何に関わらず、公平に利用できる施設・製品・情報の設計である。その原則は「公平な利用、利用における柔軟性、単純で直観的な利用、認知できる情報、失敗に対する寛容さ、少ない身体的な努力、接近や利用のためのサイズと空間」である。この原則に立ち、どの子も「考える、分かる、できる、活用できる」ようにする授業づくりを進めるものである。特別支援教育のみならず全ての子供を対象にできる。

反転授業《佐賀県武雄市》

従来の「授業で理解、家庭で復習と習熟」から「家庭で予習、授業で確認し理解の深化」へと重点の置き方を変える。武雄市では、家庭で、子供は配布されたタブレットを使って動画教材で反復予習し、授業では質問や分からないことの教え合い、理解と定着、応用を中心に進める取り組みをしている。

逆引き設計授業《西岡加名恵》

従来の授業は、指導の構想（学習指導案作成）を立て、次に評価の構想（指導目標や到達目標の設定、評価課題と評価基準の設定）を立て、授業実践という流れであった。これを、目標（成果）の構想、目標達成の証拠としての状況の明確化、評価計画（パフォーマンス課題とルーブリックの設定）、そして指導の構想（単元の指導計画や学習指導案の作成）と逆引きに設計する発想の授業づくりである。

足場づくり授業《石田淳一》

まず、課題について、教師が指導し、学び合わせ、手助けをして、考え方や仕方を理解させ足場を作る。次に、その足場を活用して一人でも課題解決ができるようにし、さらに発展的に考えることができるようにしていく授業である。

教えて考えさせる授業《市川伸一》

まず、予習をさせ、それを前提に教師が一通り教え、基礎的な知識や技能を理解させ、習得させる。その上で、それらを使って類題や発展課題を解決する過程で思考力等を育てるといふ授業である。

問題解決型学習《片桐重男》

問題（課題）を理解し、子供に解決の計画を立てさせ、既習事項を活用してできるところまで自力で解決させ、その過程や結果について学び合わせ、知識や技能、考え方を総合的に学び取らせ、学習したことを適用・発展させる学習である。

この他、ジグソー学習法やPISA型授業などもあるがいずれも万能薬ではない。子供にとって最良のものを選択し、実行し、科学的に評価し、謙虚に改善していくことが大切である。

〈注〉《 》内は、詳細を研究する上でのヒントとしてキーパーソン、実施主体を示した。

（こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長）

●必要にして十分な知識を網羅！ 管理職試験対策にも最適！

『ポケット管理職講座「特別支援教育」』

【編集】柘植雅義（筑波大学教授） 四六判・192頁／定価（本体1,900円）＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）